

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 ひまわりデイサービス		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 17日		～ 令和 8年 3月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 26名
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 19日		～ 令和 8年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>【適切な支援の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援を行っていること。 ・こどもと保護者のニーズや課題を踏まえ、「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」等を意識した個別支援計画の作成・支援ができていること。 ・放課後等デイサービス計画に沿った支援、活動プログラムの工夫、個別活動と集団活動の組み合わせ等について、保護者からも高い評価を得ていること。 ・こどもの安心感、通所への楽しみ、事業所全体の支援について満足度が高いこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のミーティングや支援会議で、支援内容、役割分担、配置、当日や翌日の振り返りを行い、情報共有を図っている。 ・保護者から聞き取ったニーズや本人の状況、ガイドラインの内容を踏まえて個別支援計画を作成している。 ・支援プログラムを公表するとともに、連絡帳等でも活動の目的や様子が伝わるよう意識している。 ・土曜日や長期休業時には、こどもが楽しみながら社会経験や生活経験を広げられるよう、多様な活動プログラムを計画している。 ・その日の体調や状況に応じて、個別支援と集団支援を柔軟に組み合わせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より専門的な視点でアセスメントを行えるよう、研修や外部からの助言を取り入れ、支援の質をさらに高めていく。 ・個別支援計画において、5領域との関連や個別活動・集団活動のねらいがより分かりやすく伝わるよう記載内容を充実させる。 ・支援プログラムや連絡帳の記載を通して、日々の支援の意図や成果が保護者により伝わるよう工夫していく。 ・専門的支援加算に関する取組も含め、支援内容を計画や記録に適切に反映していく。
2	<p>【業務改善・職員連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務改善を進めるためのPDCAサイクルに、広く職員が参画していること。 ・職員の意見を把握し、日々の支援や業務改善につなげていること。 ・日々の支援記録やモニタリングを行い、支援の見直しに活かしていること。 ・職員研修の機会を確保し、職員の資質向上に取り組んでいること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のミーティングで支援の振り返りを行い、必要な対応を共有している。 ・HUGでサービス提供記録を作成し、ミーティング議事録等も残しながら支援の検証・改善につなげている。 ・定期的にモニタリングを行い、6か月ごとに計画の見直しを行っている。 ・法人内で虐待防止、権利擁護、安全管理等の内部研修を継続している。 ・職員が日常的に意見を出しやすい雰囲気づくりを心掛け、支援会議等で改善策を話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りをその場限りにせず、次の支援にどう活かすかまで具体化し、支援手順や対応方法として整理していく。 ・長期休み等で打合せ時間が取りにくい時期にも、必要な確認や役割分担の時間を確保できるよう工夫する。 ・外部研修への参加や、参加した内容の職員間フィードバックを進め、事業所全体の支援力向上につなげる。 ・HUGの活用をさらに進め、モニタリングや保護者確認、記録の共有をより円滑に行えるようにしていく。
3	<p>【非常時の対応・安全管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応等の各種マニュアルを整備し、訓練や研修を実施していること。 ・服薬、既往歴、てんかん発作、食物アレルギー等のこどもの状況を事前に確認し、支援に反映していること。 ・ヒヤリハットや事故報告を共有し、再発防止に努めていること。 ・こどもの安全確保や安心した通所につながる取組について、保護者からも一定の評価を得ていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体で研修計画を定め、図上訓練、机上訓練、避難訓練等を定期的実施している。 ・契約時に安全確保や衛生管理、緊急時対応について説明している。 ・服薬説明書や診断書等を預かり、関係部署も含めて職員間で共有している。 ・ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し、法人内で共有している。 ・虐待防止、権利擁護、身体拘束に関する研修を継続して実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練を実施しているだけでなく、その内容や様子、安全計画に基づく取組をHUG等を通して保護者へより分かりやすく発信していく。 ・支援中の安全配慮について確認が不十分にならないよう、ヒヤリハットを活かした再発防止策の共有を一層徹底する。 ・感染症対策や非常災害対応について、保護者に安心していただけるよう、周知方法を工夫していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>【環境・体制整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用人数やこどもの状況によっては、活動スペースや個別対応の場소가十分とは言えないこと。 ・1対1対応が必要な利用者が重なる場合や送迎対応を含め、職員体制に負担が生じることがあること。 ・構造化や見通しの提示は行っているが、忘れ物防止や来所後の行動の分かりやすさ等、さらに工夫が必要な部分があること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制度上の基準は満たしているが、実際の利用人数や利用児童の特性によっては空間的な余裕が不足しやすい。 ・クールダウンや体調不良時に使用できる個別スペースが限られている。 ・重度の利用者や個別支援を要する利用者が複数重なる、送迎や支援配置に難しさが生じる。 ・来所後の動きや持ち物管理について、視覚的な分かりやすさや職員間の確認方法に改善の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容やこどもの特性に応じて2部屋や運動室等をより柔軟に活用し、空間の使い分けを工夫する。 ・クールダウンや体調不良時の対応場所について、既存スペースの使い方を見直し、個別対応しやすい環境づくりを進める。 ・送迎や個別対応が重なる日の体制について、事前の調整や役割分担をより丁寧に行う。 ・来所後に行うことを視覚的に分かりやすく提示し、持ち物確認の方法も含めて再発防止の工夫を進める。

2	<p>【保護者・家族支援、地域とのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族支援プログラムや保護者同士の交流、きょうだい支援については十分に実施できていないこと。 ・地域の子どもや地域住民との交流機会が少ないこと。 ・放課後児童クラブや児童館等との交流について、保護者評価でも「分からない」や低評価が多いこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症流行への配慮や、保護者の参加しやすい日程調整の難しさがある。 ・過去のアンケートでは開催に否定的な意見もあり、実施方法の検討が必要である。 ・地域との交流については、事前調整や受入れ側の理解、手続き等のハードルがある。 ・家族支援プログラムについては、職員の知識や技術の蓄積が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは情報提供や小規模な交流の機会など、参加しやすい形から家族支援を検討していく。 ・保護者会については、実施の可否や希望する形式を改めて確認し、無理のない方法で検討する。 ・ペアレント・トレーニング等について、職員が学ぶ機会を設け、将来的な実施につなげる。 ・地域交流については、感染症状況や相手先との調整を踏まえつつ、実施可能な形を模索していく。
3	<p>【説明・周知の分かりやすさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全計画、各種訓練、非常時対応、支援内容等について、事業所では実施していても、保護者に十分伝わり切っていない部分があること。 ・支援の意図や業務改善の取組について、保護者へ分かりやすく伝える工夫が今後さらに必要であること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時や面談時に説明は行っているが、その後の継続的な発信が十分でない場合がある。 ・事業所内では共有・実施している内容も、保護者には見えにくい取組となっている。 ・ガイドライン改定や支援プログラム公表等、新たな取組についての周知方法がまだ十分に整理しきれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HUG、通信、ホームページ等を活用し、支援内容、訓練、安全計画、業務改善の内容を分かりやすく継続的に発信する。 ・連絡帳等で、活動の結果だけでなく目的やねらいも伝わるよう記載内容を工夫する。 ・保護者が「知っている」「分かっている」と感じられるよう、説明の機会と発信方法の両面を見直していく。